

製品名: HIRA (リン酸化 Thr555) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04771**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	HIRA
別名	HIRA; DGCR1; HIR; TUPLE1; Protein HIRA; TUP1-like enhancer of split protein 1
遺伝子 ID	7290.0
SwissProt ID	P54198
免疫原	抗血清は、Thr555 のリン酸化部位周辺のヒト HIRA 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 521-570

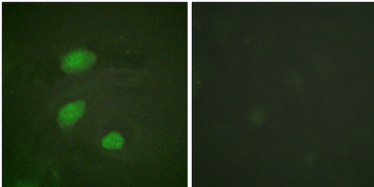
背景

この遺伝子は、変異ヒストン H3.3 をヌクレオソームに優先的に配置するヒストンシャペロンをコードしています。酵母、ハエ、植物

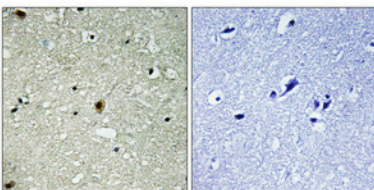
におけるこの遺伝子の相同遺伝子は、転写サイレントヘテロクロマチンの形成に必要です。この遺伝子は、老化関連ヘテロクロマチンフォーカスの形成に重要な役割を果たします。これらのフォーカスは、老化細胞で起こる不可逆的な細胞周期の変化を媒介していると考えられます。これは、ディジョージ症候群などの一部の半機能不全症候群の主な候補遺伝子と考えられており、この遺伝子の産生不足は正常な胚発生を妨げる可能性があります。[RefSeq 提供、2008年7月]、発生段階:胚発生中に発現します。、疾患:第3および第4咽頭嚢の異常な発達に起因する発達障害であるディジョージ症候群 (DGS) の病因に関与している可能性があります。臨床的特徴には、胸腺および副甲状腺の欠如または低形成、心血管奇形、顔面形成不全、口蓋裂、および精神遅滞がある。、機能:ASF1A と協力して、複製非依存的クロマチン組み立てを促進する。細胞周期中のヒストン遺伝子転写の周期的抑制に必要。老化関連ヘテロクロマチンフォーカス (SAHF) の形成および効率的な老化関連細胞周期終了に必要。、PTM:in vitro では CDK2/CCNA1 および CDK2/CCNE1 によって Thr-555 がリン酸化される。in vivo では Thr-555 と Ser-687 がリン酸化される。、PTM:SUMO 化される。、類似性:WD リピート HIR1 ファミリーに属する。、類似性:8 つの WD リピートを含む。、細胞内局在:主に、ただし排他的ではないが、核に局在する。老化開始直前の PML 小体に局在する。、サブユニット: ヒストン H3F3B、PAX3、PAX7 と相互作用する (相同性による)。CCNA1、HIRIP3、NFU1/HIRIP5、ヒストン H2B と相互作用する。ASF1A、CABIN1、ヒストン H3.3、ヒストン H4、UBN1 を含む複合体の一部である。、組織特異性: 腎臓、脾臓、骨格筋で高発現し、脳、心臓、肝臓、肺、胎盤では低発現する。、

研究分野

画像データ



HIRA (リン酸化 Thr555) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。